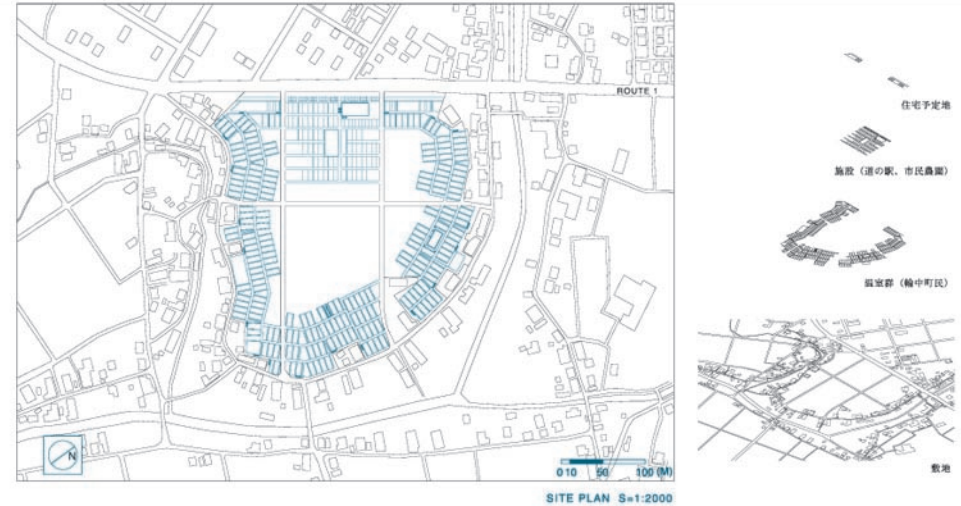


輪充の種 MULTI-輪中充填-Culture

-DIPLOMA 01-

CONCEPT



モノカルチャーからの脱却。
マルチカルチャーへの変質。

地方活性化の一つの在り方として、現状のモノカルチャーからの脱却、マルチカルチャーへの変質を提案する。
マルチカルチャーによる生産文化は、流通経済下における地方産業の安定性を確保すると同時に数立性も獲得することが可能である。

敷地：三重県長島町

かつて農業生産におけるオブジェクトとして栄えた輪中の町 長島も今や観光資源に栄えるモノカルチャーの町である。
オブジェクトとしてのコミュニティとアイデンティティーの象徴であった輪中には、今や見かけ上の生産活動しか存在しないのである。もはや、輪中は遺跡になってしまった。

本計画では、輪中という、地方の最小単位を敷地に選定することで、地方活性化の最大公約数としてのプロトタイプを提案する。

農業生産による自給自足から見出す
長島のアイデンティティー。



輪中内における自給自足型農業必要面積表

生産野菜 (品種)	ダイコン	ニンジン	サトイモ	ハクサイ	キャベツ	きくらげシソ	ネギ	アサヒ
収穫量 (kg/年)	3.75	2.04	0.93	4.13	3.46	1.54	2.13	3.02
消費量 (kg/年)	19.12	8.45	3.10	9.14	16.39	5.08	6.43	17.29
必要面積 (㎡)	1128.31	498.37	182.96	539.38	967.13	299.66	360.73	1019.82
必要面積 (円)	300.88	249.26	197.31	130.61	279.82	195.10	178.97	337.83
設計作付面積 (円)	480	384	288	192	384	288	288	384

生産野菜 (品種)	ナス	トマト	キュウリ	ピーマン	レタス	ジャガイモ	ゴボウ	レンコン
収穫量 (kg/年)	2.42	6.24	2.99	1.47	1.62	1.53	1.77	1.62
消費量 (kg/年)	6.30	14.20	10.14	2.89	5.92	13.63	2.07	1.49
必要面積 (㎡)	371.70	837.86	598.44	170.33	349.22	804.11	121.95	88.03
必要面積 (円)	103.29	249.75	189.94	116.00	215.27	493.12	68.71	54.33
設計作付面積 (円)	192	288	288	192	384	576	192	192

生産野菜 (品種)	かぼちゃ	ササニシユ	イチゴ	スイカ	メロン	ブロッコリー	コメ
収穫量 (kg/年)	1.43	0.68	2.76	3.44	2.19	1.02	0.46
消費量 (kg/年)	4.82	4.02	4.03	6.50	3.67	3.97	102.50
必要面積 (㎡)	284.26	237.18	238.01	383.56	216.53	234.47	6047.50
必要面積 (円)	108.40	249.75	85.37	111.65	88.45	230.51	13146.74
設計作付面積 (円)	384	384	288	288	192	384	22100

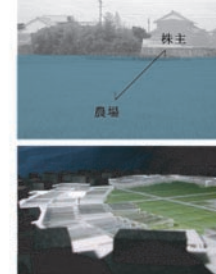
※参考資料：農林省設計局「平成14年「家計調査年報」、農林水産省設計情報センター「平成13年「野菜生産性評価報告書」

流通経済とは、一方通行のものである。
都会の消費文化に依存するこの一方通行は、地方を生産へと追い込み、
地方をモノカルチャー(単品生産・単品文化)へと限定し、
都会への羨望者を生み出した。
見かけ上の豊かさにあふれた都会は、生産から切り離された、
空虚なマルチカルチャーにしか過ぎない。
地方の崩壊は、都会の崩壊の前兆なのである。
生産への、共同体への移行。虚構性からの脱却・・・

本計画では、地方活性化が一方通行の流通経済に頼らずに、伝統の発展と、
マルチカルチャライゼーションの上に築きうることを示そうとするものである。
マルチカルチャー(多品種生産・多様文化)な地域が支える都会。
そのような風景が生まれ出ることを望んでいる。



プログラム



- 1) 輪中に住む人々が共同で資本を出資し農業会社を設立する。
- 2) 副業的な会社の役割は、輪中内における自給自足を確立することにある。
- 3) 出資者内の在宅人、外部の研究者を中心に温室での生産活動を行う。
- 4) 余剰空間において、市民農園・教育農園、道の駅、住宅をしっかりとる。

SPRING
-DIPLOMA 05-



SUMMER
-DIPLOMA 05-



AUTUMN
-DIPLOMA 07-



WINTER
-DIPLOMA 08-





輪を充たすこと。コミュニティが生まれること。それは、最高位のヒエラルキーから一次元低い環境を作ることにある。

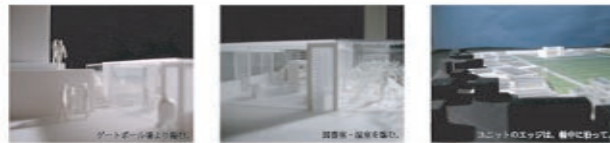
過去 輪中内においても家と土地は、誰か共持体である。家と土地との関係は平等であった。唯一、水屋のみが自然レベルに対する優位性という小さなエッジの中で優位にいたるものであった。
現在 水屋という優位性は、工業文明の発展により理由の放棄そのものになり、空欄の空間空間は、過去の家屋と相似になる。

EXAMPLE-01

7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00	24:00
起床	農作業	農作業	農作業	農作業	農作業	農作業	農作業	農作業	農作業	農作業	農作業	農作業	農作業	農作業	農作業	農作業	就寝

EXAMPLE-02

7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00	24:00
起床	農作業	農作業	農作業	農作業	農作業	農作業	農作業	農作業	農作業	農作業	農作業	農作業	農作業	農作業	農作業	農作業	就寝



町長は、野菜を取りに輪中内を歩き回る。
町長は、野菜を採りに輪中内を動き回る。
輪充の種。
生産文化から見出す地方活性化のプロトタイプとして
地方の活力に芽が出ることを願う。



開かれたオブジェクトとして。
マルチカルチャライゼーションの上に築かれる開かれたオブジェクトとして、
外部の人々を対象にした市民農園・教育農園、道の駅、住宅等の機能がある。
この多様性の中にある自然や共同体への共有意識は、
生産と消費との間にある物理的な距離を消化する営みに存在するのである。

